資料番号４

令和８年度第２回大田区認知症専門部会の実施内容について

・令和８年度第２回大田区認知症専門部会の次第及び区からのお知らせ
・議事（１）令和８年度第１回大田区認知症専門部会の実施内容及び大田区高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進会議委員からのご意見について
・議事（２）大田区認知症施策推進計画の構成案について
・議事（３）大田区認知症施策推進計画の指標設定及び目標値の検討について
・【参考】大田区認知症施策推進計画専門部会委員名簿

令和８年度第２回大田区認知症専門部会の次第及び区からのお知らせ

令和８年度第２回大田区認知症専門部会　次第

【日 時】令和８年７月15 日（水）13 時30 分から15 時まで　【会 場】大田区役所本庁舎　２階　205会議室

＜ 次　第 ＞

１．開　　会

２．挨　　拶

３．議　　事

（１）令和８年度第１回大田区認知症専門部会の実施内容及び大田区高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進会議委員からのご意見について

（２）大田区認知症施策推進計画の構成案について

（３）大田区認知症施策推進計画の指標設定及び目標値の検討について

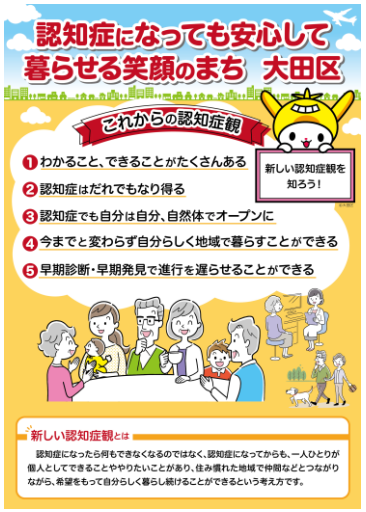
【参考】区からのお知らせ

・新しい認知症観の普及啓発に係るチラシについて、今年の５月に新たに作成したことをご報告し、部会委員の皆様に配付しました。

・チラシの表面の一番上には、計画のキャッチフレーズにもなっている「認知症になっても安心して暮らせる笑顔のまち 大田区」を記載し、その下に、これからの認知症観を掲載しています。

・チラシの裏面には、「新しい認知症観を深める取組・講座」、「大田区内の認知症の相談窓口」など、区からのお知らせを掲載しています。

・チラシは、各地域包括支援センターや区内の３医師会など、区内各所に送付し、新しい認知症観の普及啓発に取り組んでいくことをご説明しました。



チラシ（表面）

チラシ（裏面）

議事（１）令和８年度第１回大田区認知症専門部会の実施内容及び大田区高齢者祉計画・介護保険計画推進会議委員からのご意見について

議事（１）の実施内容

- 令和８年度第１回大田区認知症専門部会の実施内容を振り返るとともに、推進会議でいただいた意見を共有。（下段資料）
- **推進会議委員からは、認知症対応型通所介護に関する区独自の呼称・愛称の提案や、認知症に対する理解を若い世代へどのように広げていくかなどのご意見があったことを部会委員へ報告。**

大田区高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進会議での共有及びご意見

推進会議でいただいたご意見（一部抜粋）

- 認知症高齢者グループホームと認知症対応型通所介護に関する記載について意見があります。このテーマは以前から議論されているものですが、グループホームは正式名称が「認知症対応型共同生活介護」であっても、一般的には「グループホーム」という名称で広く認知されています。一方で、「認知症対応型通所介護」については、通称であっても「認知デイ」で「認知症」という言葉が前面に出ていることから、利用への心理的な抵抗につながっているという現場の声もあります。大田区として、この「認知症対応型」という名称について、利用しやすい愛称や分かりやすい呼び方を工夫することはできないでしょうか。介護保険制度上の正式名称を変更することはできませんが、区独自の呼称や愛称を用いて周知することで、利用への抵抗感を和らげることもできるのではないかと思います。認知症対応型通所介護は重要なサービスですが、利用につながりにくい場合には、結果として施設入所が先に選択肢となってしまうこともあります。そうした状況を踏まえ、サービス利用の促進という観点からも、名称や周知方法について工夫を検討していただければと思います。

- 認知症に対する理解を、特に若い世代へどのように広げていくかは非常に重要な課題だと思います。認知症について学ぶ講座を学校で実施することは大切ですが、その前提として、日頃から若い世代と高齢者が接する機会があることも重要ではないかと思います。高齢者との関わりが少ない中で認知症だけを取り上げると、十分な理解につながらなかったり、場合によっては偏った受け止め方につながったりすることもあるのではないかと感じています。私どもが取り組んでいる多世代交流の活動では、バンダナクラブの活動のような絵本の読み聞かせ活動や農園活動などを通じて、子どもたちと高齢者が自然に交流する機会を設けています。そうした日常的な交流を通じて高齢者への理解が深まったうえで、認知症について学ぶことがより効果的なのではないかと思います。認知症に関する学習だけを切り離して考えるのではなく、地域全体で世代を超えて支え合い、理解し合うという視点で取り組むことが大切ではないかと思います。その意味では、認知症講座のあり方についても、改めて考えていく必要があるのではないかと感じています。

21

※令和８年度第１回大田区認知症専門部会の実施内容に関する説明は、令和８年度第１回大田区高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進会議の議事（４）「大田区認知症専門部会の実施報告について」で説明した内容と同様。

認知症専門部会資料　資料番号１：
令和８年度第１回大田区認知症専門部会の実施内容等について（P21）

議事（２）大田区認知症施策推進計画の構成案について

議事（２）の実施内容①

- 次期おおた高齢者施策推進プランに内包する大田区認知症施策推進計画については、第６章で新たに章立てをして掲載していくことを説明。（下段左）
- 大田区認知症施策推進計画の構成案については、部会委員のイメージがつきやすいように、記載内容やページ数などを記載しながら、現時点でどのような構成を検討させていただいているかを説明（下段右）

次期おおた高齢者施策推進プランにおける大田区認知症施策推進計画の掲載場所

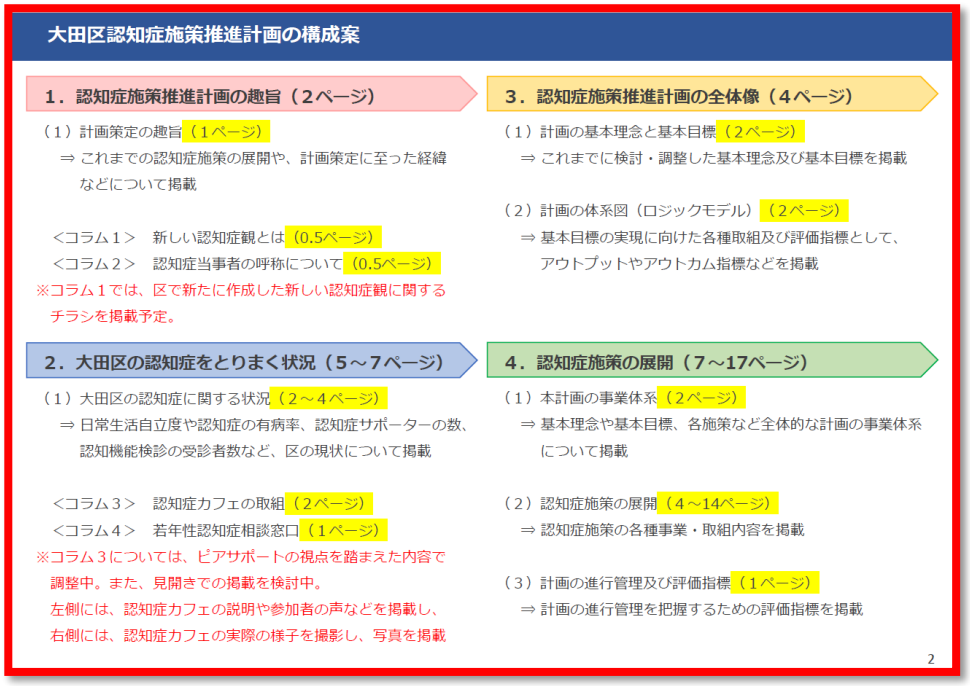
○ 次期おおた高齢者施策推進プラン（令和９年度から令和11年度まで）の全体構成案は、以下のとおりとなります。
このうち、**認知症施策推進計画については、第６章に掲載を予定**しています。

現行計画の構成	次期計画の構成（案）
第1章　本計画の位置づけ	第1章　本プランの概要
1　計画策定の趣旨	1　プラン策定の趣旨
2　計画の基本的性格	2　プランの位置づけ
3　計画策定の体制と方法	3　プランの策定体制
4　SDGsの視点からみる第9期計画	4　SDGsとの関係
第2章　大田区の高齢者をとりまく状況	第2章　大田区の高齢者をとりまく状況
1　大田区の高齢者をとりまく状況の推移	1　高齢者の現状と今後
2　高齢者等実態調査結果	2　高齢者等実態調査結果
第3章　日常生活圏域ごとの地域特性	第3章　地域包括ケアシステムと日常生活圏域
1　大田区の日常生活圏域	1　地域包括ケアシステムについて
2　各地域の状況（地域カルテ）	2　日常生活圏域の設定
	3　各地域の状況（地域カルテ）
第4章　第9期計画の全体像	第4章　本プランの全体像
1　計画の基本理念と基本目標	1　基本理念と基本目標
2　基本目標の概要	2　本プランの進め方
3　計画を推進する基本的視点について	3　本プランの施策体系
4　大田区の地域包括ケアシステム	
5　第9期計画における地域包括ケアシステム深化・推進に向けた取組	
第5章　高齢者福祉施策の展開	第5章　高齢者福祉施策の展開
1　第9期計画の事業体系	1　本プランの事業体系
2　高齢者施策の展開	2　高齢者施策の展開
3　計画の進行管理及び評価指標について	3　計画の進行管理及び評価指標について
（新設）	第6章　認知症施策の推進
	1　認知症施策推進計画の趣旨
	2　大田区の認知症をとりまく状況
	3　認知症施策の全体像
	4　認知症施策の展開
第6章　介護保険事業の現状と今後の運営	第7章　介護保険事業の現状と今後の運営
1　介護保険事業の現状	1　介護保険事業の現状
2　介護保険事業量と事業費の見込み	2　介護保険事業量と事業費の見込み
3　円滑な介護保険事業の運営	3　円滑な介護保険事業の運営
資料編	資料編

認知症施策推進計画の内容は、第６章に掲載予定

1

認知症専門部会資料　資料番号２：
大田区認知症施策推進計画の構成案について（Ｐ１）



大田区認知症施策推進計画の構成案

１．認知症施策推進計画の趣旨（２ページ）

（１）計画策定の趣旨（１ページ）
⇒ これまでの認知症施策の展開や、計画策定に至った経緯などについて掲載

＜コラム１＞　新しい認知症観とは（0.5ページ）
＜コラム２＞　認知症当事者の呼称について（0.5ページ）
※コラム１では、区で新たに作成した新しい認知症観に関するチラシを掲載予定。

２．大田区の認知症をとりまく状況（５～７ページ）

（１）大田区の認知症に関する状況（２～４ページ）
⇒ 日常生活自立度や認知症の有病率、認知症サポーターの数、認知機能検診の受診者数など、区の現状について掲載

＜コラム３＞　認知症カフェの取組（２ページ）
＜コラム４＞　若年性認知症相談窓口（１ページ）
※コラム３については、ピアサポートの視点を踏まえた内容で調整中。また、見開きでの掲載を検討中。
左側には、認知症カフェの説明や参加者の声などを掲載し、右側には、認知症カフェの実際の様子を撮影し、写真を掲載

３．認知症施策推進計画の全体像（４ページ）

（１）計画の基本理念と基本目標（２ページ）
⇒ これまでに検討・調整した基本理念及び基本目標を掲載

（２）計画の体系図（ロジックモデル）（２ページ）
⇒ 基本目標の実現に向けた各種取組及び評価指標として、アウトプットやアウトカム指標などを掲載

４．認知症施策の展開（７～17ページ）

（１）本計画の事業体系（２ページ）
⇒ 基本理念や基本目標、各施策など全体的な計画の事業体系について掲載

（２）認知症施策の展開（４～14ページ）
⇒ 認知症施策の各種事業・取組内容を掲載

（３）計画の進行管理及び評価指標（１ページ）
⇒ 計画の進行管理を把握するための評価指標を掲載

2

認知症専門部会資料　資料番号２：
大田区認知症施策推進計画の構成案について（Ｐ２）

議事（２）大田区認知症施策推進計画の構成案について

議事（２）の実施内容②

- 議事（２）で報告した内容を踏まえ、**『（１）計画書の構成（内容やレイアウト等）について』**、**『（２）コラムの内容（現在予定している４つのコラム以外に発信した方が良い取組）について』**、部会委員からの意見を聴取。

部会委員の皆様にお伺いしたいこと

（１）計画書の構成について

◎ 計画書がどういう内容やレイアウト（イラスト等）だと読みやすいですか？

・計画書ではコラムを交えて、**区民の皆様にとっても親しみを持って読みやすいものとなるよう**、「新しい認知症観」の内容や、認知症カフェでの取組を取り上げる予定です。

・計画書の記載内容について、**どういったものであれば、自分自身が、または、区民の皆様が読みやすいものになると思いますか？**

（例）レイアウトやイラストの工夫、 １ページあたりの文量、計画書のベースとなる色　等

（２）コラムの内容について

◎ 現在予定している４つのコラム以外に、特に力を入れて発信した方が良い取組はありますか？

・現在、大田区認知症施策推進計画では、**『①「新しい認知症観」とは』**、**『②認知症当事者の呼称について』**、**『③認知症カフェの取組』**、**『④若年性認知症相談窓口』に関する４つのコラムを掲載予定**です。

・上記のコラム以外に、**特に力を入れて発信した方が良い、区民に知ってほしい取組**はございますか。

※コラムに関する参考例については、次ページをご覧ください。

3

認知症専門部会資料　資料番号２：大田区認知症施策推進計画の構成案について（P３）

議事（２）大田区認知症施策推進計画の構成案について

議事（２）の実施内容③

（１）計画書の構成について

- **笑顔を中心とした構成**

⇒ 計画の基本理念である「認知症になっても安心して暮らせる笑顔のまち」を踏まえ、笑顔の写真を掲載してほしい。

- **手に取って見てもらえるような工夫**

⇒ 計画書はまず「見てみよう」と思ってもらえる構成が重要なため、写真やイラストを効果的に活用した構成が良い。

- **文字数の削減**

⇒ 極力文字数を減らして、パッと見て内容が伝わるようにすると、高齢者だけでなく若い世代にも親しみやすくなると思う。

- **新しい認知症観とこれまでの認知症観との対比**

⇒ 「認知症になったら何もできなくなってしまう」という誤解をなくすために、新しい認知症観との対比を伝えてほしい。

- **認知症のある人の声**

⇒ 認知症と診断された後も地域で社会参加を続けている様子が伝わる内容にしてほしい。

（２）コラムの内容について

- **早期診断・早期発見の重要性**

⇒ 医師による早期診断の重要性や認知機能検診について紹介する内容があってもよいと思う。

- **ステップアップ講座やチームオレンジ等の取組**

⇒ チームオレンジやステップアップ講座、９月の認知症月間のイベントなどは区が力を入れて取り組んでいる事業として紹介できると良い。

- **認知症のある人の視点・診断された方の活動**

⇒ 認知症と診断された方が、どこでどのような活動をしているのかということは、同じ立場の方にとって非常に関心の高い情報ではないかと思う。

- **コラムのデザイン・イラスト**

⇒ 区のキャラクターである「はねぴょん」をストーリーテラーとして活用するなど、親しみやすく見やすい構成にする工夫があってもよいと思う。

議事（２）大田区認知症施策推進計画の構成案について

議事（２）の実施内容⑤

部会委員からの声

（１）計画書の構成について

【 笑顔を中心とした構成 】

- データ的なことも大切だと思いますが、計画の基本理念である「認知症になっても安心して暮らせる笑顔のまち」の「笑顔」という点を大切にしたいと考えています。認知症のある人が「こんなことをして楽しかった」ことが分かるような笑顔の写真を掲載していただきたいと思います。様々な活動を楽しんでいる様子や、「これができて楽しかった」というエピソードが伝わる内容があるとよいと思います。

- この間チームオレンジ「ひとしずく」で認知症カフェを開催し、チームのメンバー以外に６人の方が参加しました。その活動が終わって反省会をするときに、チームのメンバーが「今日、認知症のある人が来なかったね」と話していましたが、私から見ると６人とも認知症のある人でした。ステップアップ講座を受けて一緒に運営している方でも気が付かなかったという状況で、最近も認知症カフェを開催しましたが、皆さん普通にお話しされていてやはり分からないということがありました。そのため、チームオレンジ「ひとしずく」の活動を撮影すれば、どなたがメンバーで、どなたが認知症のある人かが分からないような楽しい写真が取れると思いますので、そういった写真を掲載していただければと思います。

- 計画全体を通して、「笑顔」をコンセプトとし、施策や認知症のある人からの声を通じて、最後には笑顔につながることが伝わるようなストーリー性のある構成がよいと思います。

議事（２）大田区認知症施策推進計画の構成案について

議事（２）の実施内容⑤

部会委員からの声

（１）計画書の構成について

【 手に取って見てもらえるような工夫 】

- 計画書はまず「見てみよう」と思ってもらえる構成が重要であり、興味を引く内容であれば、多くの人が目を通してくれるのではないかと思います。興味がなかったり、自分に関係ないと思ったりしたら、多分そのままにしてしまうと思うので、年代を問わず手に取ってページをめくりたくなるような工夫が必要と思います。また、文字ばかりの構成ではなく、写真などを効果的に活用することで、より見やすく親しみやすい計画書になるのではないかと思います。

- 計画書は、認知症に関心のない区民や、初めて認知症に直面した本人・家族が手に取ってみたいと思えるものにしていただきたいと思います。また、「新しい認知症観」を示すとともに、各ページで何を伝えたいのかが短い言葉で分かり、写真やイラストを効果的に活用した構成がよいと思います。

- 色使いについて、認知症に対する不安を助長しないよう工夫し、認知症サポーターのオレンジリングなどをイメージしたオレンジ色を取り入れることで、計画全体の統一感が生まれるのではないかと思います。

- 計画書の全体の構図として、視覚的に分かりやすいことは重要ですが、色を多用しすぎるとかえって見づらくなることもあるため、本当に伝えたい部分を効果的に強調するなど、色使いのバランスにも配慮する必要があると思います。また、高齢者にとっては文字の大きさも重要であり、読みやすいフォントサイズとすることが望ましいと思います。

議事（２）大田区認知症施策推進計画の構成案について

議事（２）の実施内容⑥

部会委員からの声

（１）計画書の構成について

【 文字数の削減 】

- 計画書は内容を正確に伝える必要があるため、ある程度の文章量は必要だと思いますが、極力文字数を減らして、イラストや写真を活用することで、「何だろう」と興味を持って見てもらえるような構成にするとよいと思います。私自身も視覚的な情報の方が興味を持ちやすいため、視覚に訴える工夫は効果的だと感じます。できるだけ簡潔な言葉で伝えることを意識していただければと思います。

- レイアウトについて、どうしても行政計画は文字数がすごく多くなってしまう傾向があると感じています。例えば、各ページで「現状と課題」「取組」「目標」などが整理され、そのページで伝えたい内容が一目で分かる構成が望ましいと思います。また、認知症症状のある人やご家族、地域住民、専門職が交流している様子などの写真を掲載することで、地域で支え合う姿をイメージしやすくなると思います。やはり文字と写真があったら、写真のインパクトの方が大きいと思うので、そのような構成にしていくと良いと思いました。

- 行政計画は文章が多くなりがちですが、細かいところを見なくても流れを見て伝わるものが良いと思います。地域包括支援センターのチラシでも、文章よりもタイトルや内容が一目で分かるようにしてくれないと困るという声がよくあります。計画書についても、文章はできるだけ簡潔にし、イラストなどを活用して、パッと見て内容が伝わるようにすると、高齢者だけでなく若い世代にも親しみやすくなると思います。

議事（２）大田区認知症施策推進計画の構成案について

議事（２）の実施内容⑦

部会委員からの声

（１）計画書の構成について

【 新しい認知症観とこれまでの認知症観との対比 】

- 認知症カフェについては、皆さんが楽しく活動している様子が伝わる写真を掲載するとよいと思います。また、「新しい認知症観」については、従来の認知症観との違いを対比して示すことで、より分かりやすく伝えられるのではないかと思います。

- 計画書は、データやストーリー、写真、イラストなどを効果的に活用することで、内容が伝わりやすくなると思います。また、この計画は「認知症になったら何もできなくなってしまう」という誤解をなくすためにつくるものだと考えており、その視点からも「新しい認知症観」を計画全体のコンセプトにしても良いのかなと思います。

【 認知症のある人の声 】

- 認知症のある人の声を計画全体の随所に掲載し、診断後も地域で活動や社会参加を続けている様子が伝わる内容にすると、認知症になっても自分らしく暮らし続けられる姿をよりイメージしやすくなると思います。

- 支援者側の説明が多くなってしまうような気がするので、認知症のある人の言葉も取り入れながら、認知症になってもできることがあり、自分らしい暮らしが続いていることが伝わる内容にしていただきたいと思います。。

議事（２）大田区認知症施策推進計画の構成案について

議事（２）の実施内容⑧

部会委員からの声

（２）コラムの内容について

【 早期診断・早期発見の重要性 】

- コラムでは、医師による早期診断の重要性について紹介する内容があってもよいと思います。皆さんが検査を躊躇する理由として、やはり認知症と言われるのが怖いという部分があると思いますが、「新しい認知症観」や認知症症状のある方への呼称、尊厳を大切にした取組などを伝えた上で、認知症と診断されても過度に恐れる必要はなく、早期に診断を受けることで適切な対応につながることが伝われば、受診への後押しにもなるのではないかと思います。

- ＭＣＩやＳＣＩなど、早期に適切な治療や生活改善を行うことで改善が期待できるケースがあることを紹介すると、認知症への不安の軽減や受診への後押しにつながると思います。こうした内容を掲載する場合は、医師の意見として示すことで、より信頼性のある情報として伝えられるのではないかと思います。

- 早期発見・早期受診という観点から、認知機能検診について紹介するとともに、診断後にどのような支援につながるのかを示すことが重要だと思います。現状では、大田区内で紹介できる取組はまだ限られていますが、不安があれば地域包括支援センターに相談できることや、認知症地域支援推進員が中心となって認知症カフェやチームオレンジなどの取組を進めていることについても周知できるとよいと思います。

議事（２）大田区認知症施策推進計画の構成案について

議事（２）の実施内容⑨

部会委員からの声

（２）コラムの内容について

【 ステップアップ講座やチームオレンジ等の取組 】

- チームオレンジやステップアップ講座は区が力を入れて取り組んでいる事業であり、他にも大森地区での見守り声掛け訓練に多くの方が参加していただいております。また、チームオレンジ「ひとしずく」や認知症マフづくりの活動ともつながり、広がりを見せています。このような区の取組の成果も計画で伝えられると良いと思います。

- 一般の方に認知症を知っていただく機会としては、認知症サポーター養成講座も実施はしていますが、どこの地域でも９月の認知症月間に図書館と連携した展示など、各地域包括支援センターで様々な普及啓発の取組を実施しているため、そのような取組についても紹介できるとよいと思います。

- 「認知症サポーターとはどのような活動をする人なのか」をテーマとして取り上げ、養成講座修了後にどのような活動ができるのかを紹介する内容があってもよいと思います。認知症サポーター養成講座の受講者数を示すだけでなく、実際の活動内容を紹介することで、より分かりやすく伝えられるのではないかと思います。

- 計画書で認知症カフェの取組を紹介していただけることは大変ありがたいと思います。また、認知症の診断を受けることは大切ですが、チームオレンジのメンバーの中にも、「認知症と言われるのが怖くて病院へ行けない」という方がおり、認知症に対する不安が受診をためらう要因になっていると感じています。前回の認知症カフェでのアンケート結果からも、認知症に対して怖いというイメージを持っている方が多いことが分かっています。そのため、「新しい認知症観」を分かりやすく伝えるとともに、受診後にどのような支援や取組につながるのかという道筋も示すことで、安心して受診につながるのではないかと思います。

議事（２）大田区認知症施策推進計画の構成案について

議事（２）の実施内容⑩

部会委員からの声

（２）コラムの内容について

【 認知症のある人の視点・診断された方の活動 】

- 認知症と診断された方がどこでどのような活動をしているのかということは、同じ立場の方にとって非常に関心の高い情報ではないかと思います。認知症になりたくてなったわけではなく、診断を受けたことで諦めてしまったり、周囲に知られたくないと思ったりする方もいますが、それはもったいないことだと思います。「認知症と診断されても怖くない」ということをどういう形で発信できるかは分からないけれども、何かしら発信できれば良いのではないかと思います。

- 「新しい認知症観」という表現について、誰にとって新しい認知症観なのかという疑問がいつもあります。認知症に関心のない方にとっては「新しい」も「古い」もなく、伝わりにくい面があるのではないかと思います。例えば、「昭和の常識から令和の新常識へ」といったように、変化が分かりやすく伝わる表現にすることも１つの方法ではないかと思います。これまで支援者目線からの発信が多かったと思いますが、認知症のある人からの発信を大事にしていこうとするのが「新しい認知症観」のポイントであると考えています。そのような視点を分かりやすく伝えることで、これまで認知症に関心のなかった方にも関心を持ってもらえるのではないかと思います。

議事（２）大田区認知症施策推進計画の構成案について

議事（２）の実施内容⑪

部会委員からの声

（２）コラムの内容について

【 コラムのデザイン・イラスト 】

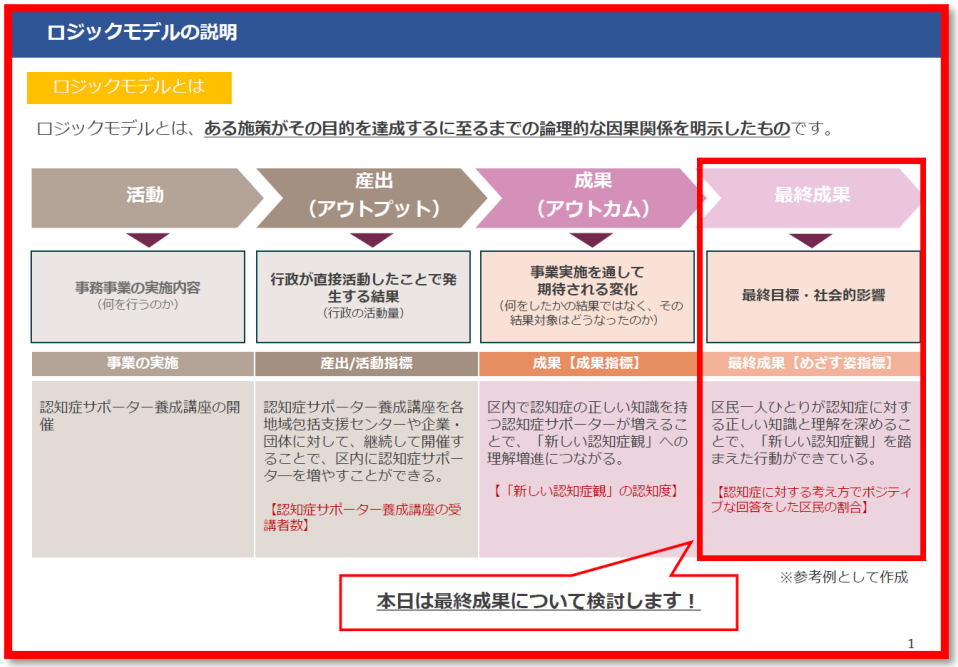
- ４つのコラムを紹介するにあたって、かなり文字数が多くなることが想定されるため、区のキャラクターである「はねぴょん」をストーリーテラーとして活用するなど、親しみやすく見やすい構成にする工夫があってもよいと思います。

- 「笑顔」を前面に推していきたいと私も感じていて、認知症であることを隠していない方から笑顔の写真を募り、アルバムのようなページを設けることで、「大田区では皆さんが楽しそうに過ごしている」ということを伝えられるのではないかと思います。居宅介護支援の現場でもデイサービスを選ぶ際には、利用者が楽しそうに過ごしている写真があると、雰囲気が伝わり選びやすくなります。大田区も認知症と診断されても楽しく過ごせることが見た目で分かるような写真を掲載できると良いと思います。

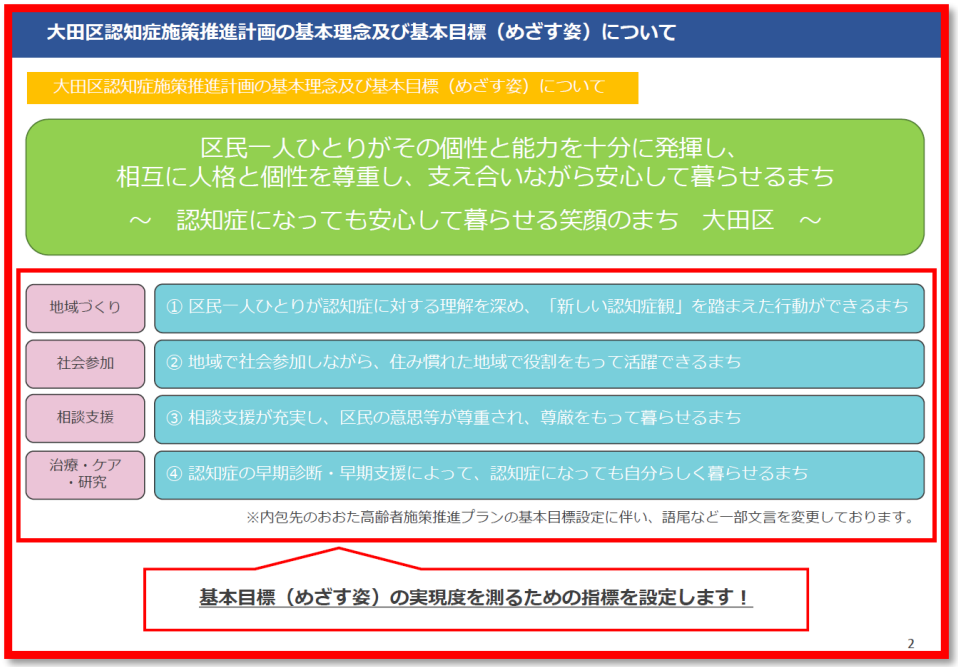
議事（３）大田区認知症施策推進計画の指標設定及び目標値の検討について

議事（３）の実施内容①

- ロジックモデルとはどういうものか、普段馴染みのない方々にも分かりやすいように、図を用いながらロジックモデルの流れを説明（下段左）した後、大田区認知症施策推進計画の基本目標に紐づくと考えられる指標について紹介し、実現度を測るための目標値の設定を部会委員とともに検討していくことを説明。（下段右）
- 基本目標に紐づくと考えられる指標については、令和７年度大田区高齢者等実態調査や大田区区民意識調査を用いて設定。



認知症専門部会資料　資料番号３：
大田区認知症施策推進計画の指標設定及び目標値の検討（Ｐ１）

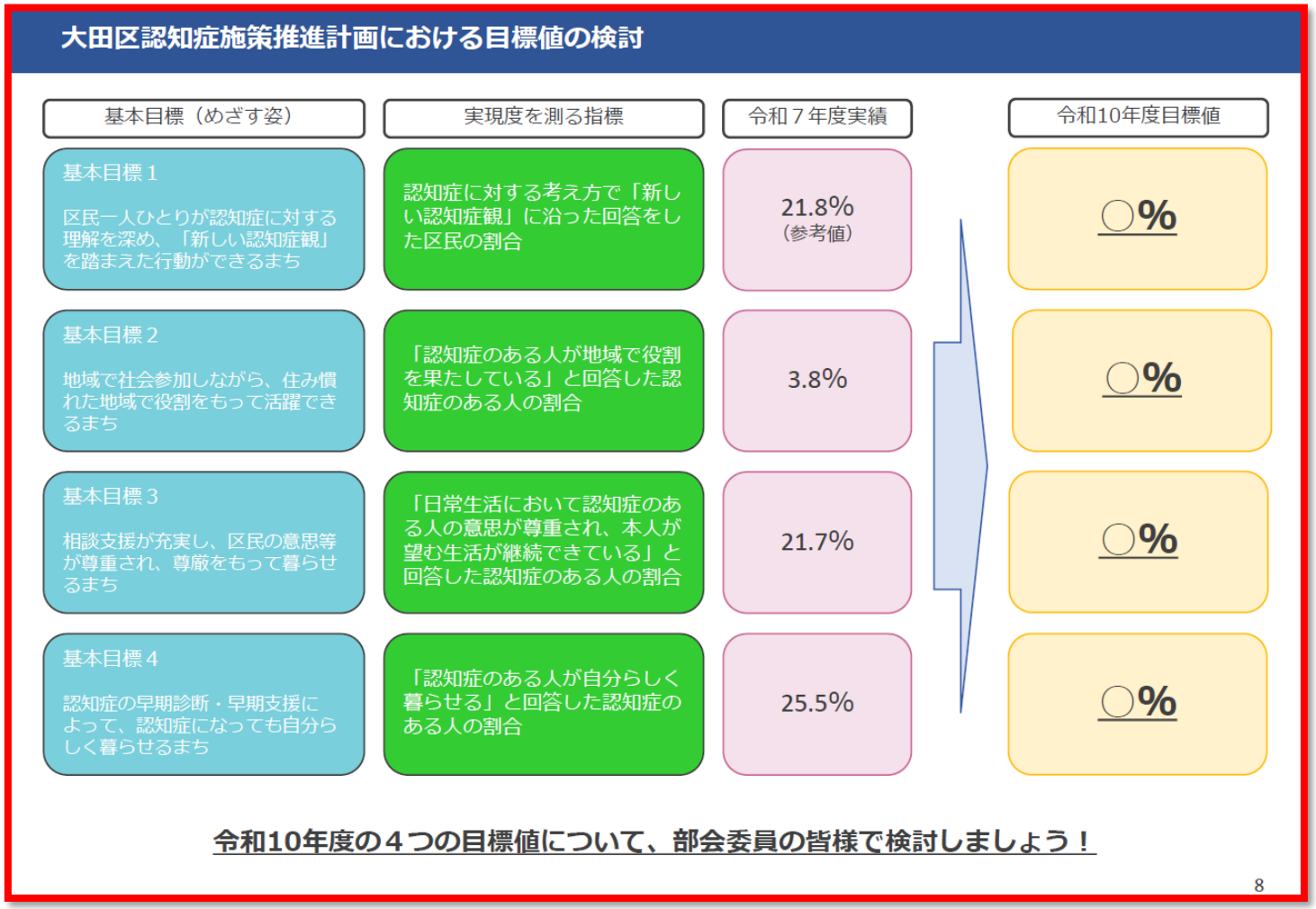


認知症専門部会資料　資料番号３：
大田区認知症施策推進計画の指標設定及び目標値の検討（Ｐ２）

議事（３）大田区認知症施策推進計画の指標設定及び目標値の検討について

議事（３）の実施内容②

- 議事（３）について一通り説明後、各基本目標に対する令和７年度の実績値を踏まえて、令和10年度の目標値を部会委員とともに検討。



認知症専門部会資料　資料番号３：大田区認知症施策推進計画の指標設定及び目標値の検討（Ｐ８）

議事（３）大田区認知症施策推進計画の指標設定及び目標値の検討について

基本目標１

区民一人ひとりが認知症に対する理解を深め、
「新しい認知症観」を踏まえた行動ができるまち

実現度を測る指標

認知症に対する考え方で「新しい認知症観」に沿った回答をした区民の割合
（区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査
※令和８年度から選択肢を一部変更予定）

具体的な設問内容

＜ 設問内容 ＞
認知症に対する考え方に近いものをご回答ください。（複数回答）

＜ 設問に対する回答（選択肢） ＞
１．認知症になっても、わかること、できることがたくさんある
２．認知症になっても、今までと変わらず、自分らしく地域で暮らすことができる
３．認知症は、誰でもなり得るものである
４．認知症は、早期診断・早期発見で進行を遅らせることができる
５．認知症になると、地域での生活継続が困難になる
６．認知症になると、症状が進行し、何もできなくなる
７．認知症になると、周りに迷惑をかけてしまう

→ １～４を回答した区民の割合を集計予定

※現在、区民意識調査の設問内容を調整中のため、文言が変更となる可能性があります。

部会委員からのご意見

・どんぶり勘定になってしまいますが、目標値として３割は欲しいと思っています。
・私は、35%から40%を考えていました。現状が21.8%であることや、今年から認知症のある人による発信など新たな取組が進められることを踏まえると、効果を検証するためにも35%から40%程度を目標として設定してもよいのではないかと思います。

令和７年度実績	21.8%（参考値）	→	令和10年度目標値	**３５%**

議事（３）大田区認知症施策推進計画の指標設定及び目標値の検討について

基本目標２

地域で社会参加しながら、住み慣れた地域で役割をもって活躍できるまち

実現度を測る指標

「認知症のある人が地域で役割を果たしている」と回答した認知症のある人の割合
（大田区高齢者等実態調査・概要版　P13）

※ここでの**「認知症のある人」とは、日常生活自立度Ⅰ*以上の何らかの認知症症状を有する方**を指しています。

具体的な設問内容

＜ 設問内容 ＞
「認知症の人とともに生きる、優しい地域づくり」として以下のことは実現できていると思いますか。（複数回答）

＜ 設問に対する回答（選択肢） ＞
1．区民が「新しい認知症観」を理解していること
2．日常生活において認知症の人の意思が尊重され、本人が望む生活が継続できること
3．認知症の人が自分の思いを伝えることができる家族、友人、仲間がいること
4．認知症の人が就労、ボランティア、趣味の活動など地域や社会で人と関わっていること
5．認知症の人が地域で役割を果たしていること
6．認知症の人が自分らしく暮らせること

部会委員からのご意見

・3.8%という数字は、思っていたより低いという印象です。今年度は、ご本人に声かけをして様々な場でお話しいただく取組を考えておりますので、10%が高いかどうかは分かりませんが、10%ぐらいまでいくと良いなという希望があります。

令和７年度実績	3.8%	→	令和10年度目標値	**１０%**

議事（３）大田区認知症施策推進計画の指標設定及び目標値の検討について

基本目標３

相談支援が充実し、区民の意思等が尊重され、尊厳をもって暮らせるまち

実現度を測る指標

「日常生活において認知症のある人の意思が尊重され、本人が望む生活が継続できている」と回答した認知症のある人の割合
（大田区高齢者等実態調査・概要版　P13）

※ここでの**「認知症のある人」とは、日常生活自立度Ⅰ*以上の何らかの認知症症状を有する方**を指しています。

具体的な設問内容

＜ 設問内容 ＞
「認知症の人とともに生きる、優しい地域づくり」として以下のことは実現できていると思いますか。（複数回答）

＜ 設問に対する回答（選択肢） ＞
1．区民が「新しい認知症観」を理解していること
2．日常生活において認知症の人の意思が尊重され、本人が望む生活が継続できること
3．認知症の人が自分の思いを伝えることができる家族、友人、仲間がいること
4．認知症の人が就労、ボランティア、趣味の活動など地域や社会で人と関わっていること
5．認知症の人が地域で役割を果たしていること
6．認知症の人が自分らしく暮らせること

部会委員からのご意見

・最近でも地域包括支援センターで、認知機能が低下した方を地域住民が見つけて相談につながる事例が２件ほどあり、地域包括支援センターの周知も進んできていると感じています。そのため、先ほどのように35～40%の目標値を設定してもよいと思います。
・私も35%ぐらいがよいと思います。基本目標１と同様に、これまで部会で検討してきた内容が今後発信されていくことを考えると、基本目標２とは異なり、35%ぐらいを目標としてもよいのではないかと思います。

令和７年度実績	21.7%	→	令和10年度目標値	**３５%**

議事（３）大田区認知症施策推進計画の指標設定及び目標値の検討について

基本目標４

認知症の早期診断・早期支援によって、認知症になっても自分らしく暮らせるまち

実現度を測る指標

「認知症のある人が自分らしく暮らせる」と回答した認知症のある人の割合
（大田区高齢者等実態調査・概要版　P13）

※ここでの**「認知症のある人」とは、日常生活自立度Ⅰ*以上の何らかの認知症症状を有する方**を指しています。

具体的な設問内容

＜ 設問内容 ＞
「認知症の人とともに生きる、優しい地域づくり」として以下のことは実現できていると思いますか。（複数回答）

＜ 設問に対する回答（選択肢） ＞
1．区民が「新しい認知症観」を理解していること
2．日常生活において認知症の人の意思が尊重され、本人が望む生活が継続できること
3．認知症の人が自分の思いを伝えることができる家族、友人、仲間がいること
4．認知症の人が就労、ボランティア、趣味の活動など地域や社会で人と関わっていること
5．認知症の人が地域で役割を果たしていること
6．認知症の人が自分らしく暮らせること

部会委員からのご意見

・目標値をパーセンテージで示すことは難しいと思いますが、他の基本目標と同様に35%程度でもよいと思います。
・目標値の設定は難しいですが、根拠を持って数字を示したいと思っております。厚生労働省の資料では、認知症と診断された方のうち、軽度の方が約40%くらいとされていますが、この方々はどの基本目標もクリアしたいと考えております。現実的には35%程度でもよいと思いますが、少し高めの目標として設定することもよいのではないかと思います。
・認知症のある人を対象とした目標であることを踏まえると、40%を目標としてもよいのではないかと思います。基本目標１は区民全体を対象としているためハードルは高いですが、基本目標４は40%でもよいのではないかと思います。

令和７年度実績	25.5%	→	令和10年度目標値	**４０%**

部会委員とともに検討した令和10年度の目標値の最終結果

基本目標（めざす姿）	実現度を測る指標	令和７年度実績	令和10年度目標値
基本目標１ 区民一人ひとりが認知症に対する理解を深め、「新しい認知症観」を踏まえた行動ができるまち	認知症に対する考え方で「新しい認知症観」に沿った回答をした区民の割合	21.8% （参考値）	３５%
基本目標２ 地域で社会参加しながら、住み慣れた地域で役割をもって活躍できるまち	「認知症のある人が地域で役割を果たしている」と回答した認知症のある人の割合	3.8%	１０%
基本目標３ 相談支援が充実し、区民の意思等が尊重され、尊厳をもって暮らせるまち	「日常生活において認知症のある人の意思が尊重され、本人が望む生活が継続できている」と回答した認知症のある人の割合	21.7%	３５%
基本目標４ 認知症の早期診断・早期支援によって、認知症になっても自分らしく暮らせるまち	「認知症のある人が自分らしく暮らせる」と回答した認知症のある人の割合	25.5%	４０%

【参考】大田区認知症施策推進計画専門部会委員名簿

【支援者　６名】

	所属（依頼先）	氏名
1	大田区地域包括支援センター蒲田東 ※大田区高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進会議委員を兼務	小野　昌之
2	大田区地域包括支援センター平和島	保坂　泰樹
3	大田区若年性認知症支援コーディネーター	堀端　秀和
4	大田区認知症支援コーディネーター	角岡　真祐美
5	東京都認知症介護指導者	藤澤　良太
6	大田区チームオレンジ	北村　御幸

【認知症症状のある人及びその家族　３名】

	所属（依頼先）	氏名
1	認知症症状のある人	三橋　昭
2	若年性認知症症状のある人	飯田　香
3	家族会	福島　敏寿